



2015.2.6
第156号

発行

福島県市町村
教育委員会
連絡協議会
北会津支会
耶麻支会
両沼支会

編集

福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力

小・中学校長会

ふるさとへの誇り



会津若松市教育委員会
委員長 白井 美津子

四年前の四月、私の長女は進学のため上京しました。東日本大震災の非常時という事で入学式は延期、保護者の同席は不可。学寮に娘を置いてきた時の事を思い出すと、今も心にザワザワとした不安がよみがえります。その娘の所に、住民票を移した役所から「自主避難のみなさまへ」として、交流会やイベントのお誘いなどの様々なお知らせが届くそうです。あの時期、福島県から住民票を移すという事は、ある一つの括りに入るのかと、改めて福島県出身であることの意味を突き付けられたよう

でした。風評被害や差別では無くて、福島県人には特別な思いが付いて回るのは致し方ない現実です。震災原発事故により子供達に背負わせてしまった荷物は、いつになつたら下ろせるのでしょうか。誰もが日々の生活を少しでも良質なものにしたいと求めてきただけなのに、途方もない困難に繋がっていったことを、発想する事無く生きていたことが今も悔やまれてなりません。明治以降、屈辱の涙で生きた会津人は、士族も市井の人々も現在に至るまで、大学設置に見られるような行政的格差を受け

入れてきました。だからこそ勉学に励み、中央のみならず世界で活躍する人物を輩出し、彼らを誇りに感じ生きて来たのです。大和政権の求めで防人としてふるさとを離れた古代の人々にとって、雄大な会津嶺が心の拠り所になったように、今こそ子供たちの心に誇り高く、いつもやさしいふるさと会津を根付かせてやりたいと強く思うのです。自分は愛されるために、求められ生まれ来たのだという自己有用感、生きる基盤として全ての子どもたちに与えられる権利です。愛され、確かな学力を身に付けさせ、本物の持つ魅力に触れさせ、夢を語らう時、子供たちは自分自身に誇りを持ち、友人を尊重出来る人間になれるでしょう。誇りは生きる力となり、そしてその時、背負った荷物も少しは軽くなるのではないかと、またそうあって欲しいと願うばかりです。

各種受賞紹介

敬称略

□ 文部科学大臣表彰

- 教育者表彰
会津高等学校 校長 箱崎二三彦
- 優秀教職員表彰
会津若松市立謹教小学校 教諭 結城 克徳
- 学校保健及び学校安全表彰
会津若松市立大戸小学校
- 社会教育功労者
元三島町公民館長 佐藤 朋義
- 優れた「地域による学校支援活動」
三島町学校支援本部

□ 県教育委員会表彰

- 地方教育行政功労者
前昭和村教育委員 羽染としの
- 学校教育功労者
会津若松市立謹教小学校 校長 本田 樹
喜多方市立第二小学校 校長 関本 良
会津若松市立第四中学校 校長 川島 宏
会津高等学校 校長 箱崎二三彦

- 社会教育関係功績顕著な団体・施設
会津若松市立会津図書館
- 学校保健功労賞
猪苗代養護学校 学校薬剤師 寿田 正夫
- へき地教育関係功績顕著な団体・施設
北塩原村立裏磐梯小学校
- 優秀教職員
会津若松市立大戸小学校 教諭 安藤 裕明
喜多方市立山都中学校 教諭 中島誠太郎
猪苗代町立東中学校 教諭 渡部真喜子

○ 「児童生徒(団体)の部」特別功績団体

- 猪苗代町立猪苗代中学校女子バドミントン部 (富岡町立富岡第一中学校女子バドミントン部)
- 県学校関係緑化コンクール (学校環境緑化の部)
 - 教育長賞
会津美里町立本郷小学校
 - 関東森林管理局長賞
会津若松市立川南小学校
 - (公財)福島県都市公園・緑化協合理事長賞
磐梯町立磐梯第一小学校

- (公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団理事長賞
会津若松市立湊小学校

□ 県学校保健会表彰

- 学校安全ボランティア活動奨励賞
城北安全支援ボランティア隊
- 学校保健会感謝状
前会津美里町立新鶴小中学校学校 歯科医 渡部 正吾

□ 県学校歯科保健優良校表彰

- 優秀賞
会津若松市立大戸小学校
会津若松市立河東学園小学校
磐梯町立磐梯第二小学校
喜多方市立第一小学校
喜多方市立上三宮小学校
喜多方市立第三小学校
喜多方市立駒形小学校

□ 県学校給食会優良団体・功労者表彰

- 優良団体
会津若松市会津若松学校給食センター

□ ふくしまっ子ごはんコンテスト

- 学校賞
会津美里町立新鶴小学校
磐梯町立磐梯中学校
会津美里町立新鶴中学校

総務社会教育課事業報告

1 読書活動支援者養成事業・ステップアップ研修

- (1) 日時 平成26年10月16日(木)・17日(金)
- (2) 会場 湯川村公民館
- (3) 内容 講義・講話・実践発表・交流会

- 講義①「お話し会プログラムの組み方について」
- 講義②「選書と子どもの本について(思春期)」
- 講義③「赤ちゃんと絵本をひらいたら(ブックスタート)」
- 講義④「子どもにつたえたい ふるさとのわらべうた」
- 講義⑤「科学の本って おもしろい!」
- 講義⑥「子どもと本のかけ橋に~継ぐ技術~」
- 講話「読書ボランティア活動を継続するために」
- 実践発表「中高生の読書環境と大人の役割」
- 交流会 75名の参加者が6グループで話し合いました。



お話し会の実演



手遊びの練習

実践発表



万華鏡づくり

2 第2回学校支援実践研修会(会津・南会津研修会)

- (1) 日時 平成26年11月20日(木)
- (2) 会場 三島町公民館
- (3) 内容 実践発表・支援活動見学

- 実践発表①(学校支援)
 - ・「地区探検」「桐の学習」「田んぼの学習」などを支援している。
 - ・給食がないため、「お楽しみランチ」を年30回提供している。
- 実践発表②(放課後支援)
 - ・学校の授業の続きのような形で取り組んでいる。
 - ・前年度の課題をいかした活動内容を設定し、実践している。
- 支援活動見学(放課後支援)
 - ・科学のおもしろ実験…「万華鏡づくり」
 - ・元高校教師を講師に、スタッフが安全管理・活動支援を行う。

●域内における学力向上の成果と課題

域内における学力向上策の成果と課題は次のとおりです。○が成果、●が課題です。引き続き、課題解決の取組をお願いします。

1 学力向上グランドデザイン的设计・実施・評価

- 学力向上グランドデザインに記載した共通実践事項を意識し「わかる・できる授業」の実現を目指して、多くの学校が日々努力している。
- 週案を使って共通実践事項の実施状況を管理職が定期的にチェックし、組織として指導の改善を進めている学校がある。
- 自校の全国学力・学習状況調査の分析結果を生かして、年度途中で学力向上グランドデザインを改善している学校がある。
- 年度が改まっても学力向上グランドデザインの内容が一字一句同じである等、学力向上グランドデザイン設計等の重要性の共有や内容改善が図られていないと思われる学校がある。

2 「わかる・できる授業」の実践

- 「教科の部屋」や「今、目指したい授業」等の資料を活用して、めあてとまとめの整合性を図ったり、適切な言語活動を取

- り入れたりして授業を改善している学校が数多くある。
- 週案に授業のねらいを記入するように決めて全員でそれに取り組むなどして、組織として「わかる・できる授業」を実践しようとしている学校がある。
- ねらいが明確でなかったり、めあての板書やまとめの時間がないなど、児童生徒が「わかった、できた。」という満足感や、次時への意欲を感じることができない授業がまだ見られる。

3 確かな学力の向上を支える基礎づくりとしての学習習慣・生活習慣の確立

- 宿題の内容を工夫して、家庭での学習習慣の確立に努めている学校がある。
- 各種たよりや保護者会で保護者に呼びかけ、家庭と協力して生活習慣や学習習慣の確立に努めている学校や市町村がある。
- 宿題や家庭学習について、1日1時間、1日3ページなど、まだ量のみを意識が向いている学校がある。授業とのつながりや個に応じた内容などの質に意識を向ける必要がある。

●学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の取組

「つなぐ教育」とは、子ども自身が、過去から現在、そして未来へと続く自分を見つめながら、自分らしい生き方を実現できるようにするために、家族や教職員、社会の人々の力をつないで教育力を高めていく営みです。(福島県学力向上改善会議の提言より)

会津域内では、喜多市立山都中学校区、会津美里町が事業推進地域となり、次のような取組を進めてきました。

- 1 地域連絡推進委員会での事業全体計画の作成
- 2 事業推進地域における課題の明確化、共有、及び課題解決に向けた取組の推進
- 3 小小連携や小中連携による授業研究や交流授業の実施
- 4 授業研究や交流授業による連携強化、教員の指導力の向上
- 5 学びのプランの作成、学びの手引きの作成
- 6 地域連携学習会の開催

- 7 連携地域講演会の開催
- 8 PTA連絡会議の開催
- 9 テレビ会議システムの活用

これらの成果と課題をまとめ、会津教育事務所のホームページに掲載する予定です。各小中学校で、ぜひ活用をお願いします。



「テレビ会議システムを使用して、コアティーチャーの授業を参観したり、研究協議に参加している様子」(塩川中学校、高田中学校)



クリティカルシンキング

会津美里町教育委員会教育長 佐治 和則

先日ある壮行会のような会で、ある人が「もう十分がんばっている皆さんに、これ以上がんばれというのは酷です、がんばれとは言いません」と発言した。最近このような発言をよく耳にする。そのたびに私は「本当だろうか?」と考えてしまう。「がんばれ」と言われてつらくなるほど、自分を追い込んで、がんばっている人はそんなにいるのだろうか。少なくとも私は、過去を振り返ってみても、自分なりに努力したことはあるが、そこまでがんばったという経験はない。

勿論、みんなが私のような怠惰な者だけではない。例えば、野口英世のような人はそうだったかもしれない。ノーベル賞を受賞した山中伸也教授は、アメリカに留学したとき、研究所の教授に「研究の成果を上げるコツは、VW(ビジョン&ワークハード)」と指導されて、他の人の3倍は実

験をしたという。

また、精神的に自分を追い込んでいる人にとってはつらく感じるかもしれない。

しかし、多くの人にとって、この発言をそのまま受け入れれば、自己満足に陥ってしまうことにつながらないか、そんなふうに思うのである。

明治の文豪幸田露伴は、「努力論」という著書の中で「努力は成果と関係なく、するべきものなのだ。そもそも、努力というのは、常に前進していきたいという情熱をもって生まれた人間本来の姿なのだから」と言っている。露伴によれば、努力することは我々の本能なのである。私は直感的ではあるが、露伴の主張に納得する。我々は、とにかく努力しなければならないのである。

冒頭の発言に戻れば、確かに、このような発言をしなければならない場合はあるだろう。しかし安易にするものではないと思うのだが。

我がまちからの情報発信

伝統文化を継承する小学生の活動

西会津町には町指定重要文化財が35点あり、その中に宝坂の屋敷地区に保存されている「屋敷人形芝居道具一括」が民俗資料として指定されている。この資料は、所有していた藤原勇氏(故人)の手作りによるものである。同氏は、若い頃から村の青年達と歌舞伎芝居や新派劇などを演じていた。そのようなとき、秋田の猿倉人形芝居一座が屋敷地区で興業したのが人形芝居との出会いであった。少人数でありながら劇的な人形演技に魅せられ、猿倉人形芝居一座に入門し、興業の手伝いをしながら人形芝居を学んだ。人形の頭の制作も行っている。当時、人形芝居は、冬期間や田植え終了後に、地元や県内外の広範な地域で行われていた。主な演目には、「三番隻」「狂言」「岩見武勇伝」等があり、興業時間も3時間から4時間と長時間にわたった。屋敷地区では、昭和38年頃までこの人形芝居が演じられていたが、その後廃絶している。

平成に入ってから、西会津小学校へ統合する前の旧群岡小学校の子ども達が、地域の文化を学ぶ授業で屋敷人形芝居について学習した。子ども達は、途絶えていた「郷土の伝統を継承し、後世に

西会津町教育委員会

伝えたい」と思い、「伝統クラブ」を結成し、当時存命であった藤原清鬼氏(勇氏の子)の指導を受け、途絶えていた屋敷人形芝居に取り組んだ。平成24年、町内の5小学校が西会津小学校に統合されてからも、町の貴重な文化遺産を継承していく活動を続けている。現在は、「屋敷人形クラブ」として、人形つかいの基礎、セリフの言い回しなどを学習し、新たな物語を創作し演ずるなどの活動を行っている。11月15日に行われた「西小わくわくフェスティバル」で演じられた創作人形劇「かにのおんがえし」は、すばらしいものであった。

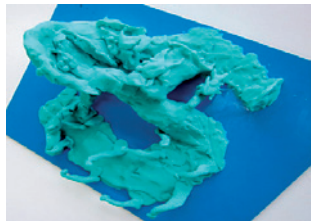


一旦途絶えた郷土の伝統芸能を、クラブを結成し継承しながら、新たな試みを加味し活動している西会津小学校の「屋敷人形クラブ」を紹介しました。

作品と指導

工作

『母のミント』



喜多方市立関柴小学校
3年 羽入 凛

粘土で作ったクワガタ虫を動かしながら、虫の世界を粘土で広げていきました。

友だちと楽しく話し合いながら、イメージを作っていました。虫を思う子ども達の優さが表れています。

指導者 生江和枝

絵画

『列車に乗って世界旅行へ』



湯川村立箕川小学校
6年 大須賀 翔

背面をローラーで色づけした後、列車や建物をかき込んでいきました。絵の具やコンテを使い、深みのある彩色ができました。世界旅行をしている登場人物の動きや表情からも夢が広がります。

指導者 大須賀 恵美子

習字

『挑戦』

一箕中 齊藤 怜奈

会津若松市立一箕中学校
三年 齊藤 怜奈

中学3年間「書写」の学習に意欲的に取り組みました。

卒業を前に、未来に向けての「自分の思い」をのびのび美しい線で表現できました。名前まで行書の筆脈を意識して、丁寧に書かれていて素晴らしい作品になりました。

指導者 高笠 トシ子

三島町は、「日本でも美しい村連合」に加盟し、雪国の手仕事「編み組細工」や伝統行事が保存・継承されています。会津地鶏や会津桐などの地場産業も発展を見せたいです。また、生徒たちは、『町学校支援本部』による桐の子隊や放課後支援、お楽しみランチなどにより、常に町との関わりを実感しながら成長してきました。

こうした教育環境の中において、義務教育の最終段階である中学校の重要性と期待が高まっていると感じています。そこで、本校の教育目標『故郷を愛し、明日の社会を担う人間として調和のとれた生徒の育成をめざす』の具現化のために、校長先生の指導の下、教育活動の充実に努めていくことが自分の使命であると考えています。



三島町立三島中学校 教頭 栗城 敏彦

社会を創る人間の教育



『社会教育調査を通して、地域が求める社会教育を探る。』それが今回の社会教育主事講習の大きな目的だった。

会津・南会津グループ五名は、只見町をフィールドとして、過疎地における地域づくりと振興センター（公民館）の役割について調査を行った。アンケート作成、アンケート依頼・集計、分析作業を通して、地域の人々がどのような地元に考え、何を求めているかを追求した。



会津若松市立小金井小学校 教諭 鈴木 崇之

社会教育主事講習を終えて

研修では、他校や同期の先生方と話すことで元気が出ました。職場では先生方に支えられ、声に出すと悩みがなくなる温かい雰囲気にも包まれて過ごす事ができました。二年目からは、自分から積極的に学び、職場の先生方や近隣の養護教諭と連携して、子どもが心身共に元気に過ごせるように指導にあたりたいと思います。

着任日は晴れて、磐梯山、飯豊山がはっきりと姿を表し、会津の風景に応援されているようでした。私は、新採用研修で大きく二つのことを学びました。一つ目は、研修の大切さです。具体的な指導方法やカウンセリングは、文献だけの勉強と比べて学びが深まり、新しいスキルを身に付けることができました。二つ目は、一人で悩まないことです。



北塩原村立さくら小学校 養護教諭 鈴木 陽子

一年目で学んだこと